

実践事例 2

「かかわり合い、主体的に課題解決に向けて取り組む保健学習」

倉吉市立河北小学校 奥田友香

1. はじめに

本研究会の保健グループの研究テーマは「かかわり合い、主体的に課題解決に向けて取り組む保健学習」である。研究の視点は、次の3つとしている。

- ①児童の実態に合わせた導入の工夫
- ②児童の課題解決につながる実験・実習などを取り入れた指導法の工夫改善（習得した知識の活用）
- ③ワークシートなどを用いた次の学習へつながる評価と指導の工夫

これらの視点をふまえて、本実践では、児童が主体的に活動に取り組んでいくためにワークシートを活用したり、体が成長することを視覚的に理解できる資料を提示したりしながら、思春期の自分や友だちの体や心の変化に対する戸惑いや不安を少しでも取り除き、大人に近づいている変化であるという安心感を持たせ、これからの自分の成長を楽しみに思える学習を展開していきたいと考えた。

2. 研究の実際

「育ちゆく体とわたし」の実践を通して（4年生）

（1）本単元について

本単元では、体の発育・発達、年齢に伴って変化することや個人差があること、思春期にはいろいろな身体の変化が起きること、体をよりよく発育・発達させるために役立つ事項を理解させることをねらいとしている。自分の体について関心を持ち、今後どのような変化が体に起きていくのかという知識をつけることで、思春期の発育・発達を肯定的に受け止めることができる子どもを育てたい。

（2）児童の実態

本学級の児童（男子16名 女子14名 計30名）は、休憩時間に男女で鬼ごっこを楽しんだり、男女混合のグループ活動で声をかけ合ったりするなど、異性を意識せず一緒に活動している。体育学習の前には、男女が分かれて更衣をしているが、更衣が済んだかどうか更衣中の教室内を見ないように気を配りながら確認する男子がいたり、男子に更衣を見られても気にしない女子がいたりする反面、女子の中には胸の大きさを気にするなど、自分の体の変化に気付いている児童もいる。また、「女子は〜だ。」と、男女を区別して発言をする男子児童もいる。このように、異性に対する意識にはまだ個人差があるものの、自分の体の発育・発達に対する関心や異性に対する関心が高まってきつつある。

異性に対する意識や自分が成長したと感ずることなどを事前にアンケート（男子14名、女子12名）で調べたところ、「最近、異性のことが何となく気になる」という質問では、男子は28%、女子は41%が「気になる」と答えており、女子の方が異性に対する意識が高まってきていることが分かる。また、「自分が成長したなあと思うときや思うことがある」という質問では、男子は35%、女子は50%が「ある」と答え、その理由として、「足が速くなった」「宿題をするのが早くなった」「身長が伸びた」「我慢ができるようになった」と、体と心の発育・発達に気づいている児童がいることが分かった。反対に、「ない」と答えた理由の中には、「何も変わっていないと思うから」「いつも同じことをしているから」「ずっとわがままだから」と、自分の成長を感じられていないと考えられる児童も数名いた。

(3) 単元目標

- 体の発育・発達について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとする。【関心・意欲・態度】
- 体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それらを表すことができる。【思考・判断】
- 体の発育・発達、思春期による体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができる。【知識・理解】

(4) 単元の流れと評価計画

時	主題名	学習活動（※指導の要点）	評価規準及び評価方法		
			健康・安全への関心・意欲・態度	健康・安全についての思考・判断	健康・安全についての知識・理解
1 (本時)	「変化してきたわたしの体」	1. 身長や体重などは、年齢に伴って変化することを理解する。 2. 発育のしかたには、個人差があることを肯定的に理解するとともに、自分と他の人との違いを話し合う。 ※年齢に伴う体の変化と個人差を理解させる。	① 発言 ワークシート		① 発言 ワークシート
2	「大人に近づく体」	1. 思春期に起こる男女の体の外見上の変化を理解する。 2. 体の変化は誰にでも起こること、個人差があることを理解する。 3. 自分のこれからの体の変化に見通しを持つ。 ※男女の特徴など思春期の体の変化とその意味を理解させる。		① 発言 ワークシート	② 発言 ワークシート
3	「体の中で起こる変化」	1. 思春期になると、女子では初経、男子では精通が起こることを理解する。 2. 思春期に起こるいろいろな体の変化は、人によって早い、遅いはあっても、だれにでも起こる「大人の体に近づいているしるし」であることを理解する。 3. 思春期には、異性を気にするようになるなど、心にも変化が起こることについて話し合う。 ※思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、また異性への関心も芽生えることを理解する。	② 発言 ワークシート		③ 発言 ワークシート
4	「すくすく育てわたしの体」	1. 体をよりよく発育・発達させるためには、バランスのとれた食事や適度な運動、十分な休養・睡眠が必要であることを理解する。 2. 生活を振り返り、今後自分の体をよりよく発育・発達させるために実行しようと思うことを考える。 ※体をよりよく発達・発育させるための生活の仕方には、バランスのとれた食事、適度な運動、十分な休養・睡眠が必要であることを理解させる。		② 発言 ワークシート	④ 発言 ワークシート

(5) 指導の実際

(ア)「児童の実態に合わせた導入の工夫」

第1時の導入で、0歳からどのように成長していくのか、見通しを持たせるための資料を提示した。そして、自分の身長の伸びはど



うなっているのか、児童が主体的に調べてみたくなるように、「担任と担任の弟の身長なのびグラフ」を見させ、意欲を高めた。児童が使うワークシートと同じものを提示することで、活動の見通しを持つことができ、活動もスムーズに入り、「自分の身長なのびグラフ」作りに意欲的に取り組むことができた。

（イ）児童の課題解決につながる実験・実習などを取り入れた指導法の工夫改善

第1時では、自分の成長が感じられるようにワークシートを活用し、「自分の身長なのびグラフ」を作成させた。小数があると混乱することが予想されたので、四捨五入をして、整数を使うように各個票を準備した。「自分の身長なのびグラフ」を見て、成長を肯定的に感じ取るとともに、1年生から今までの身長なのびに驚いている児童もいた。「自分の身長なのびグラフ」ができると、隣の席の友だちだけでなく、同じグループの友だちと見比べる姿があった。ペアで見比べる活動を取り入れたが、児童が他の友だちのグラフと比べたいという姿から、グループ、全体で比較させる時間を確保することも必要であったと感じた。



（ウ）ワークシートなどを用いた次の学習へつながる評価と指導の工夫

ワークシートで小学校1年生から4年生の身長の伸びのグラフを作る活動をすることで、児童自身が自分の身長なのびを見つめ、驚きと喜びを感じることができた。また、ワークシートで作ったグラフを活用しながら、自分と友だちの記録を比較し、話し合うことで、体の発育・発達には個人差があることを実感することができた。また、身長以外にも発育しているところを考える活動を取り入れることで、身長以外にも自分の成長を見つけることができ、肯定的に自分の成長を受け止めることにつながった。

3. 成果と課題

【成果】

- ・ 資料の比較掲示（担任と担任の弟）が、これからの成長の見通しが持てるものだった。
- ・ 自分の成長を見つめることができるワークシートになっていた。
- ・ 友だちと意見交換することで児童同士がかかわりを持ち、体の発育・発達の個人差についての知識の習得を図ることができた。グループ活動を仕組み、話し合う活動が成長に関して共感を生み、有効であった。
- ・ ワークシートの最後の部分に教科書の穴埋め問題があり、評価につながるワークシートになっていた。

【課題】

- ・ 棒グラフを横に並べ、比較しやすいグラフの提示をし、より個人差がわかりやすいグラフになるように工夫していく。
- ・ 1時間で実施できるワークシートの分量を考えていく。
- ・ アンケート項目にこれからの成長の楽しみや不安を入れるとさらに効果的になっていく。（2時・3時につなげるようにする。）
- ・ 身長なのびが同じ場合でも、今の身長はちがうことから、これから大きくなっていく期待感を持たせていきたい。そして、個人差だけでなく、性差に着目することで次時につなげていくようにしていく。
- ・ 書く場面と話し合う場面のバランスを考え、成長に関して、気づいたことを学級に広げ、さらに思考を深めていくようにしていきたい。

